

『県立病院チャレンジ(挑戦)プラン 2019』(案)の概要

- ◇超高齢社会を見据え、「青森県地域医療構想」及び「青森県保健医療計画」において求められている県立病院の機能・役割に適切に対応し、「病床機能の分化・連携の推進」及び「青森県型地域共生社会の実現」を図るため、**更なる成長と地域医療を支える新たな医療モデルの創造に向け挑戦**していくための中期計画
- ◇計画期間は2019年度から2022年度までの4年間

県立中央病院の目指す姿

- 県全域を対象とした高度急性期病院として、より質の高い**高度・専門・政策医療の提供**（5疾病・5事業をはじめとする各種診療の高度化、安全で質の高い医療を支える専門性の高い人材の育成など）
- 県民が**住み慣れた地域**で安心して医療・介護を受けられるような体制の構築（入退院支援、医療・介護との連携、人材派遣・人材育成支援など）

県立中央病院の取組方策

※赤字は新規の取組

A 高度・専門・政策医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○がん対策（がん診療センターの充実、ロボット支援手術の拡大、ゲノム医療の推進など） ○心筋梗塞等の心血管疾患対策（ハイブリッド手術室の活用など） ○認知症を含む脳神経疾患対策（脳血管内治療専門医の育成、脳卒中急性期リハビリの充実、認知症の早期診療とケアの充実など） ○糖尿病対策（糖尿病地域医療連携システム(介護等と連携した人材育成や情報共有)の確立など） ○精神疾患対策（周産期メンタルヘルスの充実及び認知症ケアチームの体制強化、自殺対策の充実など） ○周産期医療対策（周産期関係医療スタッフの育成、計画的な医療機器の更新など） ○小児医療対策（医療的ケア児支援体制の構築、小児専門医療の提供体制の強化など） ○救急医療対策（広域連携による救急医療体制の強化と人材育成など） ○災害医療対策（原子力災害発生時における被ばく患者の受入体制の強化など） ○各種診療体制の強化（手術室機能の充実・強化(麻酔科医の確保)など）
B 良質で安全な医療サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ○医療の質と安全性の向上（「医療の質」総合管理センターの取組強化、医療被ばく低減対策の強化、感染症診療機能の強化など） ○健康教育(予防と健康づくり)の推進（がん教育、生活習慣病予防のためのメディコトリム、H I V予防教育の推進など） ○患者サービスの向上（医療相談体制の充実、ホスピタリティの向上など）
C 地域医療支援と医療・介護との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○入退院支援（「仮称入退院連携センター」の設置） ○地域医療支援（地域医療機関への医師派遣、自治医科大学卒業医師の効率的な配置、メディカルネットの普及・啓発など） ○在宅医療・介護との連携（医療・福祉関連施設との連携強化、看取り支援、アドバンス・ケア・プランニングの推進など）
D 良質な人材の確保と専門能力発揮に向けた体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ○医療従事者の確保・育成と看護・コメディカル部門の充実・強化（高度・専門医療の提供に必要な専門・認定看護師などの育成、365日リハビリ体制の構築、全病棟への薬剤師配置など） ○業務の負担軽減と効率化（タスクシフティング・タスクシェアリングの推進、I C Tを活用した業務負担軽減の検討、各種業務の集約化、情報ネットワークシステムの充実・強化など）
E 経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○経営力の強化（指標等を標準化した経営マネジメント、D P C係数の新規取得など） ○広報の推進（ホームページの充実、多様な広報媒体の活用など） ○施設の効率的な管理（不用財産の売却、省エネ対策の推進など） ○地域医療構想等の推進（地域医療構想が目指す医療提供体制の構築に向けた管理など）

『県立病院チャレンジ(挑戦)プラン 2019』(案)の概要

県立つくしが丘病院の目指す姿

- 他の設置主体が対応困難な患者の受入強化（急性期精神疾患患者の受入強化など）
- 患者の円滑な地域移行と社会復帰の促進（訪問看護等在宅医療の充実、ショートケアや外来作業療法の充実など）

県立つくしが丘病院の取組方策

※赤字は新規の取組

F 多職種による質の高い入院医療の提供

- 医療従事者の育成
 - ・医療スタッフの量・質の充実（精神保健指定医の育成、日本精神医学会認定栄養士の育成など）
 - ・専門性の高い医療従事者の育成（精神科専門医養成病院と連携した研修医の受入など）
- 安全な入院医療の提供
 - ・医療安全対策の強化（インфекションコントロールドクターの育成など）
 - ・計画的退院支援の強化（急性期患者の3ヶ月以内の退院促進など）
 - ・多職種チーム医療の推進（栄養食事指導体制の充実、服薬支援の実施など）
 - ・精神科救急入院料の算定（**精神科救急入院料の取得**（精神保健福祉士の確保）など）

G 多職種・施設間連携による外来医療や訪問支援の展開

- 外来・在宅医療サービスの充実・強化
 - ・在宅支援の強化（**訪問看護ステーションの設置**など）
 - ・多様な精神疾患患者への対応（多様な精神疾患への対応強化（認知症看護認定看護師などの確保・育成）など）
 - ・患者及びその家族との情報共有の推進（院内広報誌、ホームページの内容充実など）
 - ・包括的支援の推進（外来作業療法の充実、ショートケアの体制整備など）

H 健全経営の推進

- 収益確保・費用節減
 - ・医業収益の確保（入院患者数の確保(105人/日)、外来患者数の確保(120人/日)など）
 - ・費用の節減（薬品の購入価格の適正化、後発医薬品の活用、委託業務内容の見直しなど）

計画の進行管理

- 具体的な取組内容は実施計画として取りまとめる。
- 毎年度、病院事業管理者によるヒアリングを実施し、計画の進行管理を行うとともに、外部有識者等による点検・評価を行ったうえで公表する。

収支計画

- 次期プラン期間中は病院資金で整備する医療機器等（ハイブリッド手術室、ライナックなど）の減価償却費や定年退職者の増、さらには消費税率の引上げの影響などによる費用の増に伴い、収支悪化（赤字決算）が見込まれる。
- 平均在院日数の短縮や新規入院患者の確保などによる効率性の向上及び収益の増加、経費の節減など、**経営の一層の効率化に病院局一体となって取り組み、決算時点での黒字化を目指す。**

（単位：百万円）

【病院局計】	2017(H29) 年度決算	2018(H30) 年度当初予算	計画期間			
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
病院事業収益	29,757	28,095	28,697	28,928	29,113	29,063
病院事業費用	27,456	28,351	28,864	29,262	29,519	29,347
純損益	2,301	△256	△167	△334	△406	△284
一般会計繰入金	2,463	2,445	2,605	2,634	2,668	2,655

人材計画

- 医療機能や収益を充実・強化する観点等から、**4年間で正職員49名の増員**を計画。採用等については、収支への影響等を精査し、必要性を検討のうえ決定。（収支見直し等を踏まえ、内部的な配置見直し及び業務見直し等による対応を基本に、人件費の増加を抑制しつつ、医師・研修医の確保、薬剤師の全病棟配置、365日リハビリの実施、(仮)入退院連携センターの設置、医療ソーシャルワーカーの充実、夜間看護補助体制の充実 などの取組を強化）
- 今後は、限られた医療資源（人材）を有効に活用する観点から、高度・専門医療の提供に必要となる**より専門性の高い人材を計画的に育成**していくとともに、**育成した人材の技術と経験を地域に還元**することにより、**地域の医療機関とともに成長**していくことを目指す。

区分	2018年度 現員 (H30.7.1)	計画期間				計画期間 合計
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
定数内職員(正職員)	1,175	1,202	1,213	1,221	1,224	—
対前年度増減	—	27	11	8	3	49
定数外職員(臨時職員等)	412	429	427	430	430	—
対前年度増減	—	17	△2	3	0	18
計	1,587	1,631	1,640	1,651	1,654	—
対前年度増減	—	44	9	11	3	67